

◇あとがき◇

今年前半でのわたしのトピックスは「こども家庭庁の創設」と「G7広島サミット」です。こども家庭庁には期待しています。少子化社会対策とこども家庭庁により、子どもをめぐるさまざまな問題が明らかになり、一つひとつ解決されていくことが望まれます。特に、小児医療の地域格差と集中化、搬送の問題は重要であると思います。

G7広島サミットでは、核の脅威を盾にしたロシアのウクライナ侵攻中に、核を有する国々の首相が広島平和記念公園を訪れました。このことは、強いメッセージになったと思います。また、ウクライナのゼレンスキー大統領も参加したことで、全世界からの注目度も増しました。

戦争やコロナが解決して、少子化社会対策が功を奏し、人々が子どもを産み、育てたいと考えたときに、小児外科の役割はより重要になります。特に、小児の緊急手術に適切に対応できるのは小児外科医であると思います。

小児の緊急手術で1番多いものは、急性虫垂炎の手術です。今回は、急性虫垂炎の診断、治療、研究の特集です。NCDのデータ(2016～2018年平均)によると小児虫垂切除術の52.8%に小児外科医が関わっています。一方、鼠径ヘルニア類縁手術では92.4%です。緊急手術の小児の急性虫垂炎では半数が成人外科医によって行われていることには、さまざまな要因があると思います。第一は、成人外科医も急性虫垂炎手術の経験があることから、小児に対しても手術可能なことです。第二の要因として、緊急手術のため転院、紹介をせずに手術が行われていることが考えられます。今回の特集のなかに、interval appendectomy や antibiotic-free treatment など緊急手術を必要としない治療も含んでいます。成人外科医のいる施設との連携と、これらの緊急手術を必要としない治療により、今後、小児虫垂切除術における小児外科医の関与が高まることを希望します。

(浮山越史)

本誌広告取扱い

文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1

本郷宮田ビル 5 階

TEL 03-3814-8541 (代) FAX 03-3816-0415

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)東京医学社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に一般社団法人出版者著作権管理機構(TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

「小児外科」第55巻第8号(2023年8月号)

特集 希少固形がんの診断と治療

巻頭言	米田 光宏
小児希少固形がんの疫学	中田 佳世
疾患登録	加藤 実穂
病理診断	大喜多 肇
画像診断	田波 穰
分子標的治療とゲノム医療	田尾佳代子
ゲノム解析と遺伝性腫瘍	中野 嘉子
胆道閉鎖症に発症したがん	佐々木英之
小児がんの胎盤転移	羽賀千都子
がんの母子移行	荒川 歩
副腎皮質腫瘍	加藤 実穂
腭芽腫	宮地 充
ラブドイド腫瘍	勝見 良樹
胸膜肺芽腫	三藤 賢志
軟部肉腫	孝橋 賢一
甲状腺がん	薄井 佳子
食道がん	高橋 正貴
大腸がん	川野 孝文
GIST	鮫島 由友
両側性腎芽腫	大植 孝治

名誉編集委員	秋山 洋	石原通臣	岩中 督
	大沼直躬	大谷俊樹	角田昭夫
編集委員	土岐 彰	長島金二	橋都 浩平
	山崎洋次	横森欣司	
	黒田達夫	浮山越史	金森 豊
	北川博昭	越永 従道	世川 修
	渡井 有		

小児外科

第55巻第7号

©2023年7月25日発行

定価3,190円(本体2,900円+税10%)

編集 小児外科編集委員会

発行 株式会社 東京医学社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-40-5

URL <https://www.tokyo-igakusha.co.jp>

編集部 TEL 03-3237-9112 (直) FAX 03-3237-9115

e-mail: shoge@tokyo-igakusha.co.jp

販売部 TEL 03-3265-3551 (代) FAX 03-3265-2750

e-mail: hanbai@tokyo-igakusha.co.jp

2023年前金予約購読料1年分49,280円(本体44,800円+税10%)

(小児内科・小児外科 合同増刊号を含む)

*送料は前金予約購読の方のみ弊社負担です